



高齢社会演習

2022年度 プログラムNo. 2205

「住民参加型のオープンイノベーション鎌倉リビングラボ活動の実習」



■**担当教員**：秋山弘子（高齢社会総合研究機構客員教授）、吉田涼子（高齢社会総合研究機構学術専門職員）

■**概要**：

リビングラボとは、生活の現場（住んでいる自宅、地域など）において、企画段階から住民を巻き込み、企業、自治体、大学、各種団体等が互いの強みを持ちよって暮らしを豊かにするモノやサービス、社会の仕組み等の新たな価値を共創する活動です。東京大学高齢社会総合研究機構は、鎌倉市、今泉台町内会、NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台、三井住友FG等と「鎌倉リビングラボ」を運営し、高齢社会の課題を解決するモノやサービスを創り出す活動を行ってきました。本実習では、リビングラボで行われるワークショップ、インタビュー等に参加することで、リビングラボとは何か、民産官学による協働やそこで生まれるアイデアがモノやサービスに結びつく過程を体験します。加えて、大学・自治体・企業・組織等の約400団体900名が登録し、リビングラボに関する研究発表や意見交換、交流を行う「リビングラボ研究交流会」への参加機会を提供します。（開催は年に2-3回を予定、不定期）

■**日程**：

リビングラボの開催日時は未定。決まり次第、活動日の約1ヶ月前にメールにて募集。活動はCOVID-19の状況により、オンラインまたは現地（鎌倉市内）での参加。研究交流会は不定期開催。日時が決まり次第メールにて募集。実施はCOVID-19の状況により、オンラインまたは本郷キャンパス。

■**留意事項**：

- ・現地開催の場合、交通費は別途支給する。
- ・リビングラボは毎回若干名をhomerom@を經由して募集する。受入人数の上限は内容によって変動する。
- ・リビングラボ研究交流会への参加は上限なし。